

令和7年度 第24回公開教育研究大会

生徒エージェンシーを育む
カリキュラム・マネジメント(3)

～生徒エージェンシーをどう育て、どう評価するか～



東京学芸大学附属高等学校

Tokyo Gakugei University Senior High School

1.

「生徒エージェンシー」

～ OECD Education 2030 におけるエージェンシー ～

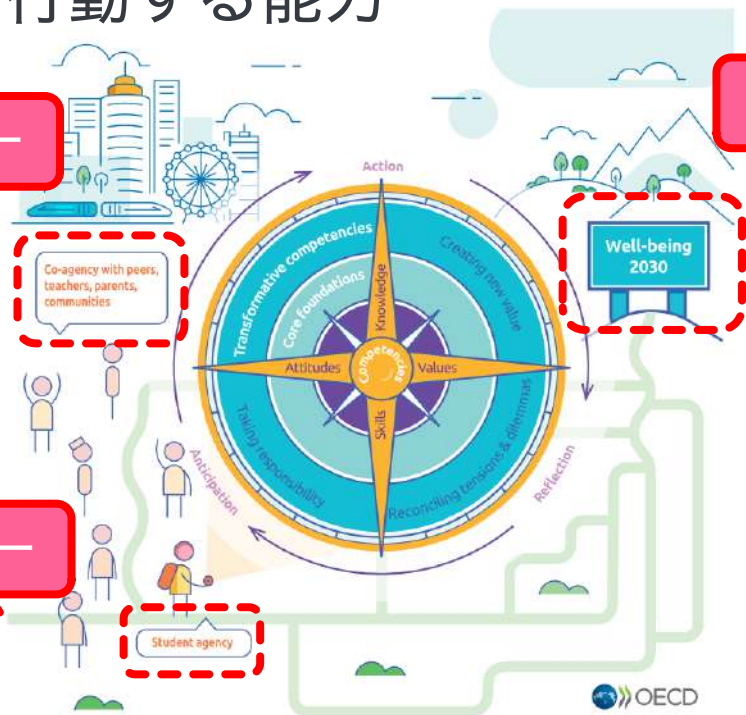
生徒エージェンシーとは

変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任を持って行動する能力

共同エージェンシー

保護者、教師、コミュニティ、そして生徒同士との双方向的な互いに支え合う関係

生徒エージェンシー



Well-being

生徒が幸福で充実した人生を送るために必要な、心理的、認知的、社会的、身体的な働きと潜在能力である

OECD (2019)
鈴木 (2021)

国立教育政策研究所 (2017) 3

- よりVUCAとなる未来において、「私たちが実現したい未来（The Future We Want）」を実際に実現していくために、エージェンシーが必要になるからである。… エージェンシーとは、「誰かの行動の結果を受け止めることよりも、自分で行動することである。形作られるのを待つよりも、自分で形作ることである。誰かが決めたり選んだことを受け入れることよりも、自分で決定したり、選択することである」と説明されている。
- 文化的・社会的なコンテクストの違いを認め、「統一的に適応可能な『エージェンシー』の定義を作ることとは不可能だとしても、その概念自体はどのような文脈でも関連性がある」としている。
- エージェンシーが、一人一人が成長する社会的・文化的な文脈において、親や仲間、地域の人々などとの関係性を通して育まれるものであるということは、エージェンシーが、生まれながらにして変えられない性格や性質といったものではなく、学習することができるもの(learnable)であるし、変えることができるもの(malleable)であることにも留意したい。

2.

これまでの取り組み

～ 生徒エージェンシーを育むカリキュラム・マネジメント ～

取り組みの継続性（R05-07）

◆ 公開教育研究大会 研究主題

「生徒エージェンシーを育むカリキュラム・マネジメント」

R05 (1) 探究活動を軸としたカリキュラムづくり

R06 (2) カリキュラムづくりを見据えた教科融合・連携の試み

R07 (3) 生徒エージェンシーをどう育て、どう評価するか

◆ SSH事業（Ⅲ期目 R06-R10）

「生徒エージェンシーを育む次世代理数カリキュラムの開発と普及」

※ 4つの事業のうちの2つ「探究活動」・「教科融合・教科連携での授業開発」

※ エージェンシー尺度の調査結果を校内研修などに還元

昨年度（R06）の課題から

“生徒エージェントシーを育む”

生徒エージェントシーの言語化
生徒エージェントシーを育む方法論



“生徒エージェントシーを育む”
観点を主軸に
「評価」について重点的に検討

“教科・科目の融合・連携”

教科・科目の融合・連携の
意義づけやかたちの整理



継続して
実践を蓄積

東京学芸大学附属高等学校研究部（2024）「生徒エージェントシーを育むカリキュラム・マネジメント(2)：カリキュラムづくりを見据えた教科融合・連携の試み 第23回公開教育研究大会を受けて」，東京学芸大学附属高等学校研究紀要，v.62，pp.65-102



今年度の教員研修

回	日 時	研修テーマ
令和6年度第4回	令和7年1月27日 (月) 16:00-17:00	「公開研の振り返り」・「次年度テーマの検討」
第5回	令和7年2月25日 (火) 16:30-17:15	「探究活動での生徒エージェンシー」
第6回	令和7年3月27日 (木) 13:00-15:00	「エージェンシー尺度調査の結果紹介」 「ポンチ絵のブラッシュアップ」
令和7年度第1回	令和7年4月28日 (月) 16:00-16:50	HR運営を学ぼう研修「HRと生徒エージェンシー」
 第2回	令和7年5月15日 (木) 16:00-16:50	公開研究会の授業作り研修 「学習モデルとエージェンシー尺度」
第3回	令和7年6月23日 (月) 16:00-16:50	「授業改善研修 ～生徒エージェンシーを 育む授業作りのために～」
 第4回	令和7年8月27日 (水) 14:45-16:15	「生徒エージェンシーの『評価』を深める研修 ～木村先生と学ぶ、生徒エージェンシー尺度の 具体的な活用と実践事例～」

今年度の教員研修（5月） 羅針盤モデルの提示

各教科・探究授業・行事・進路指導・HR指導で育む

附高の課題意識に絞って ★…本校教員の言葉

コンストラクト

発達の基盤

変革をもたらす
コンピテンシー

AARサイクル



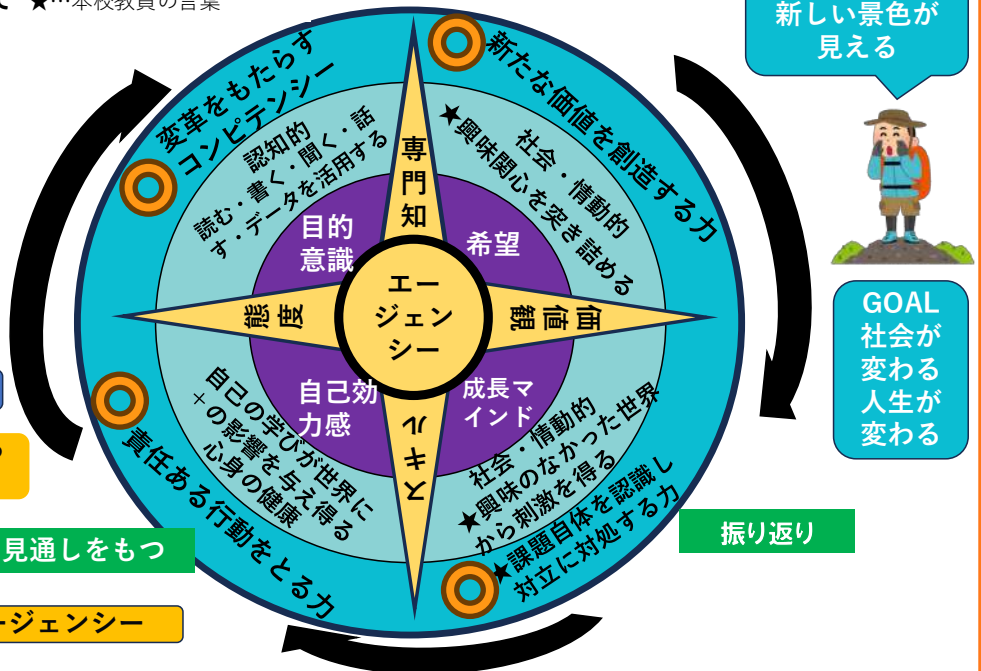
共同エージェンシー

コンパスを持って
山を登る



生徒エージェンシー

★一歩踏み出す



山に登れば
新しい景色が
見える



GOAL
社会が
変わる
人生が
変わる

振り返り

見通しをもつ

生徒エージェンシー
の言語化の一環

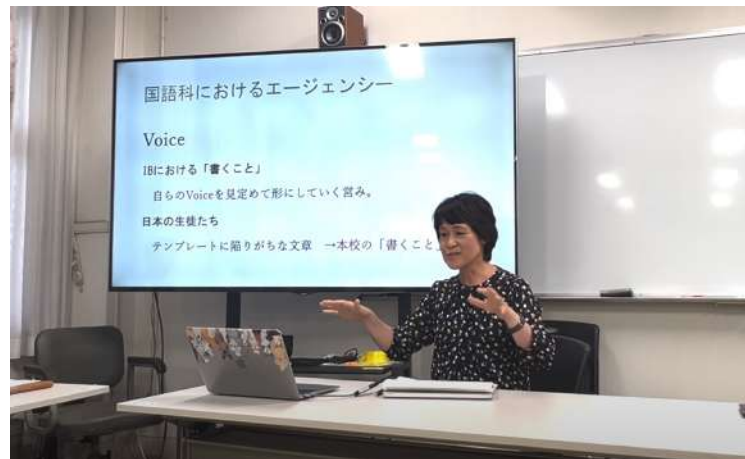
OECD Education
Compassをベースに
本校としての
アプローチを書き込む



公開授業の評価の
観点として利用

今年度の教員研修（8月） 評価の方法の検討

- ◆ 木村先生をお招きし，生徒エージェンシーの育成と評価について講演，意見交換。



現状の三観点に落とし込んで評価する

3.

今年度の提案

～ 生徒エージェンシーをどう育て,どう評価するか ～

【まとめ】今年度の提案

教科・科目 または 教科融合・連携単位で、
本校の羅針盤モデルや、エージェンシー尺度調査に
則り、生徒エージェンシーを育むカリキュラム・
単元・授業を提案する。その際、評価の方法を工夫
する。

参考資料

- OECD (2019) OECD Learning Compass Concept Notes
(<https://www.oecd.org/education/2030-project/contact/>)
- 国立教育政策研究所 (2019) 学習評価の在り方ハンドブック (高等学校編)
- 国立教育政策研究所 (2017) PISA2015 年調査国際結果報告書 生徒のwell-being
(https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/pdf/pisa2015_20170419_report.pdf)
- 白井俊 (2020) OECD Education 2030プロジェクトが描く教育の未来 ～エージェンシー, 資質・能力とカリキュラム～, ミネルヴァ書房
- 鈴木文孝 (2021) OECD 学びの羅針盤 (Learning Compass) 2030とEducation2030 Phase 2 に向けて
(<https://www2.u-gakugei.ac.jp/~jisedai/contents/2.1.1%E3%80%80%E9%88%B4%E6%9C%A8.pdf>)
- 東京学芸大学附属高等学校 研究部 (2023) 「生徒Agencyを育むカリキュラム・マネジメント(1): 探究活動を軸としたカリキュラムづくり 第22回公開教育研究大会を受けて」, 東京学芸大学附属高等学校紀要, 61, pp.117-158
- 文部科学省 (2016) 幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について (答申), 中央教育審議会答申

令和7年度 第24回公開教育研究大会 趣旨説明

ご清聴ありがとうございました。
本日はどうぞよろしくお願い致します。



東京学芸大学附属高等学校
Tokyo Gakugei University Senior High School